

平成29年度総括版

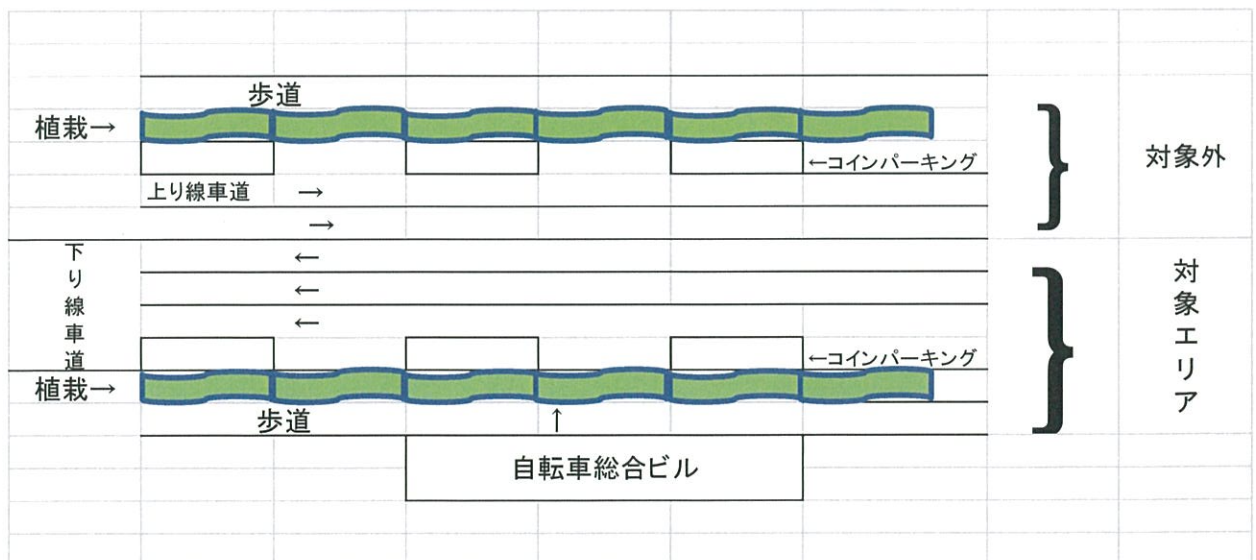
自転車利用実態定点調査報告(A地点)

(一財)日本自転車普及協会

調査目的 自転車は車道左側走行が原則であるが、実際の自転車の走行状況の実態を調査し、その状況の問題点を探り一般に公開することで、望ましい走行空間の再考資料としていただくことを目的に行う。

調査日時 平成29年4月～平成30年3月
 [午前]9:00～10:00、[午後] 14:00～15:00

- 調査場所** ・ 自転車総合ビル前（目黒駅方面に 50m 程緩い下り坂）
- 概要** ・ 調査対象(車道線:目黒通り下り 3 車線[内側 1 車線駐車帯])
 (歩道:幅員 5m・植栽 1.5m～2mのため、実質通行幅 3m～3. 5m)
- ・ 調査対象外(車道線:目黒通り上り 2 車線[内側 1 車線駐車帯]及び上り歩道)



調査事項 走行空間調査(車道、歩道)と危険走行調査

自転車利用実態調査票

No.	走行空間		車種	雨天	危険運転行為	
	歩道	車道			違反	その他
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						

調査日時	平成	11	月	23	日	時	1
天気	曇						
調査時間	～						

＜調査票＞

【総括】

平成 29 年度の総括として、以下の項目について、報告します。

◎走行空間においては、車道左側走行率は、18～25%にわたるが、平均(平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月分の 12ヶ月間)すると 22%程度である。

全般に歩道を通行する自転車が多く、全体の 7 割強を占めている。

同一地点(個別データ)においても、午前と午後で異なったデータとなっている。

◎危険運転行為(違反行為を含む)の総数は、6706 件で、内訳別は、肩に荷物(2115 件)・ハンドルに荷物(1173 件)・片手運転(859 件/内 96 件は、携帯電話を使用しながらの運転)・車道右側(571 件)・立ち漕ぎ(478 件)・歩道上でのスピードの出しすぎ(400 件)・過積載(361 件)・子乗せ後部席に荷物(*1)(321 件)・脇見運転(168 件)・ジグザグ運転(157 件)・並列運転(66 件)・車道中央(16 件)等の順となっている。

*1. 子乗せ後部席に荷物を掛ける事は、もし、気が付かない間に落下して、歩行者や自転車等に迷惑(通行障害・事故起因等)を及ぼしかねないので、基本、止めた方が望ましい。

なお、肩に荷物・ハンドルに荷物の上位 2 項目だけで、全体(6706 件)の約 5 割を占めている。(危険防止の観点から籠の装備や荷台に装着等の必要性がある)
片手運転や立ち漕ぎなども多いため、転倒や事故防止等の観点から、慎むべき項目である。

また、利用者全体(16526 名)における危険運転行為等(違反行為を含み 6706 件)の比率は、37%(*2)となっている。

*2 実際は、1 名で複数の危険運転行為等を実施している件(517 件)も含まれるため

- ・利用者別 午前と午後の比較では、午前中は、通勤・通学の送迎等の用務の関係で、午前の利用者が多かった。
- ・車道左側走行率 調査期間中では、3 月(24.0%)が最高で 5 月(19.4%)が最低であり、平均値は、21.9%であった。
上記以外は、2 月(23.4%)・1 月及び 9 月(23.3%)・12 月及び 10 月(22.1%)・6 月(21.8%)・8 月(21.3%)・11 月(20.1%)・7 月(19.7%)・4 月(19.6%)の順である。

期間中の午前の部では、9 月(23.6%)が最高で 11 月(18.9%)が最低であり、平均値は、21.5%であった。
上記以外は、3 月(23.5%)・2 月(22.1%)・12 月(22.0%)・1 月(21.9%)・10 月(21.5%)・6 月(21.4%)・4 月(21.3%)・8 月(20.8%)・5 月(19.9%)・7 月(19.5%)の順である。

また、期間中の午後の部では、1 月(25.1%)が最高で 4 月(17.9%)が最低であり、平均値は、22.3%であった。
上記以外は、2 月(25.0%)・3 月(24.7%)・9 月(23.0%)・10 月(22.8%)・12 月(22.2%)・8 月(21.9%)・6 月(21.8%)・11 月(21.4%)・7 月(20.0%)・5 月(18.8%)の順である。

同走行率は、本年度も 2 割程度で推移しており、今後において、自転車利用者による歩道走行から車道走行への意識転換が必要とされる。

・子乗せ自転車 調査期間中では、11月(26.9%)が最高で、2月(20.2%)が最低であり、平均値は、23.8%であった。

上記以外は、4月(26.2%)・9月・10月及び12月(25.8%)・5月(25.7%)・8月(23.9%)・7月(23.4%)・6月(21.8%)・1月(21.1%)・3月(20.7%)の順である。季節的に秋季が多く、冬季が、少ない。

一因として、自転車の利用しやすさ等が関係していると考えられる。

なお、同自転車における同乗者あり(平均 38.6%)の場合でのヘルメット着用率については、2月(83.6%)が最高で、8月(69.1%)が最低であり、平均値は、74.5%であった。

上記以外は、11月(78.4%)・6月及び12月(78.0%)・10月(77.9%)・9月(76.2%)・5月(74.4%)・1月(74.1%)・3月(72.2%)・7月(71.9%)・4月(70.5%)の順である。

全般的に子どもを乗車させる時には、ヘルメットを着用させる傾向が高く、自転車ルール・マナーへの意識が高い。

今後においては、同ルール等の普及により、更なるヘルメット着用の促進を期待したいものである。

・電動アシスト自転車 調査期間中では、10月(43.3%)が最高で、2月(32.1%)が最低であり、平均値は、37.2%であった。

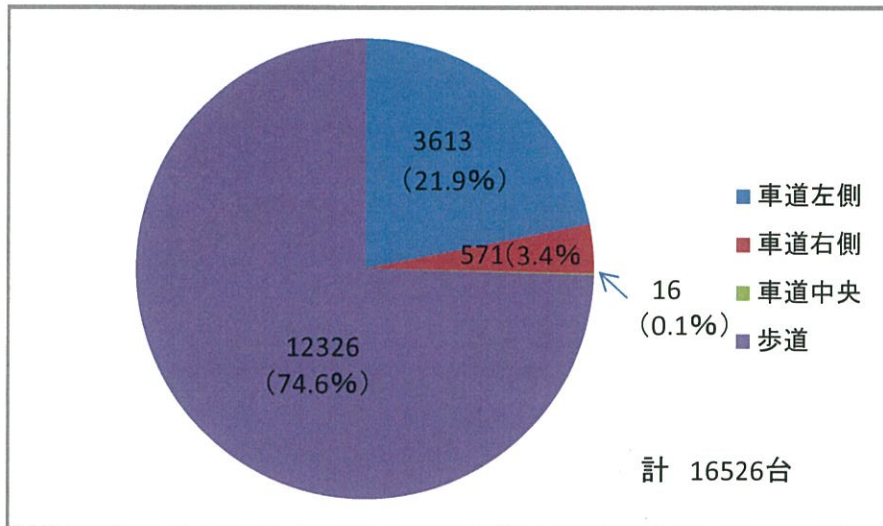
上記以外は、4月(41.5%)・11月(40.8%)・12月(40.1%)・5月(39.8%)・9月(38.7%)・8月(38.5%)・7月(35.9%)・6月(34.9%)・1月(34.7%)・3月(32.5%)の順である。

季節的に秋季が多く、冬季が、少ない。

一因として、自転車の利用しやすさ等が関係していると考えられる。

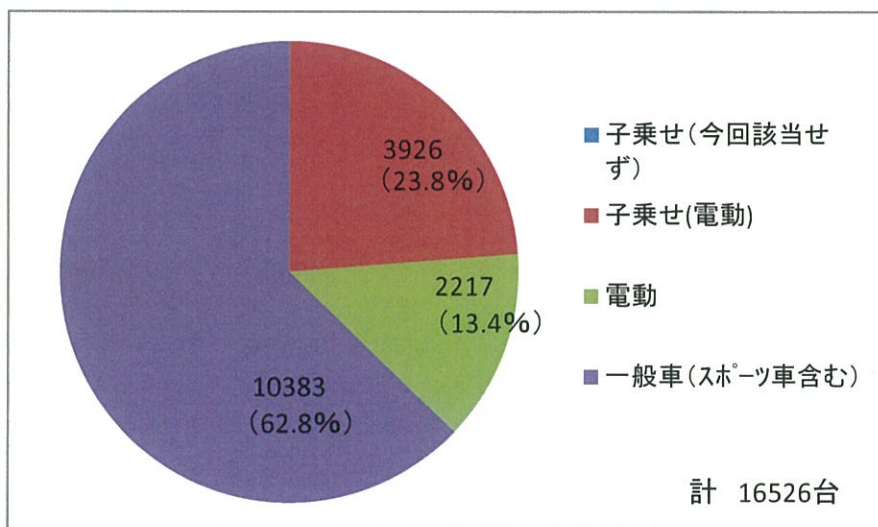
雨天時での調査は、トータル 30 日間で、調査対象総数 279 人中、合羽着用者は、217 人(78%)であり、傘さし運転者は、62 人(22%)であった。

全般的に、雨天時においては、合羽を着用する傾向が高く、自転車ルール・マナーへの意識が高い。



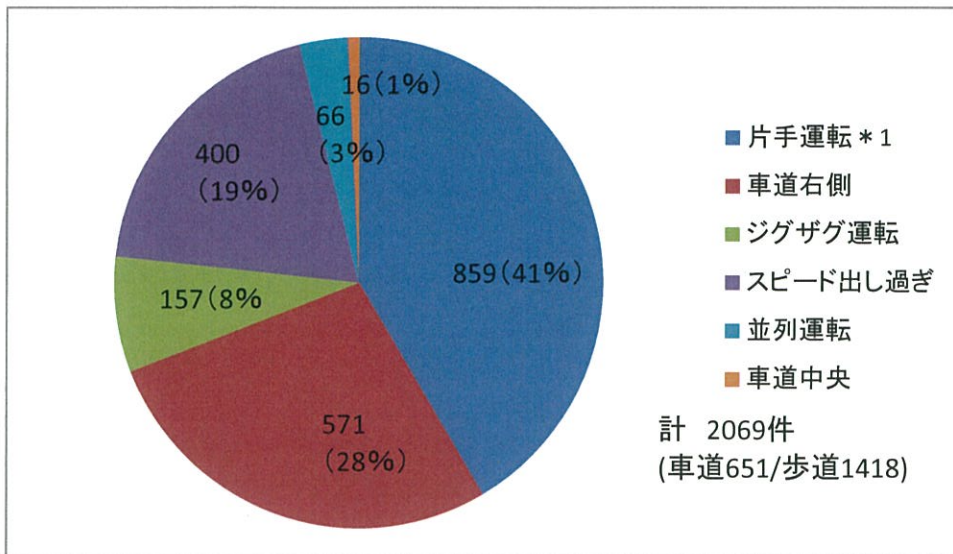
走行空間

調査期間 29年4月～30年3月



車種

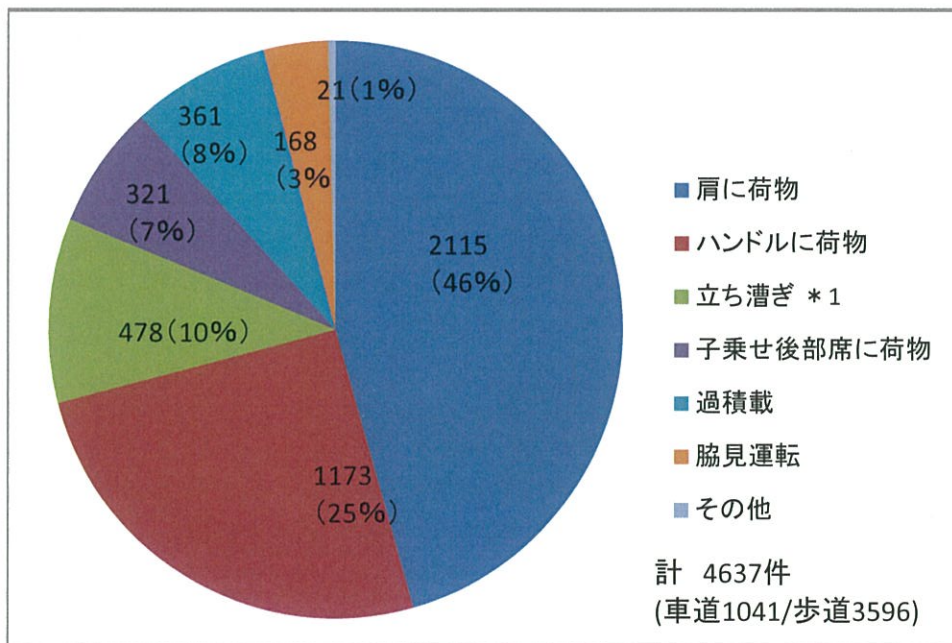
調査期間 29年4月～30年3月



違反運転行為

調査期間 29年4月～30年3月

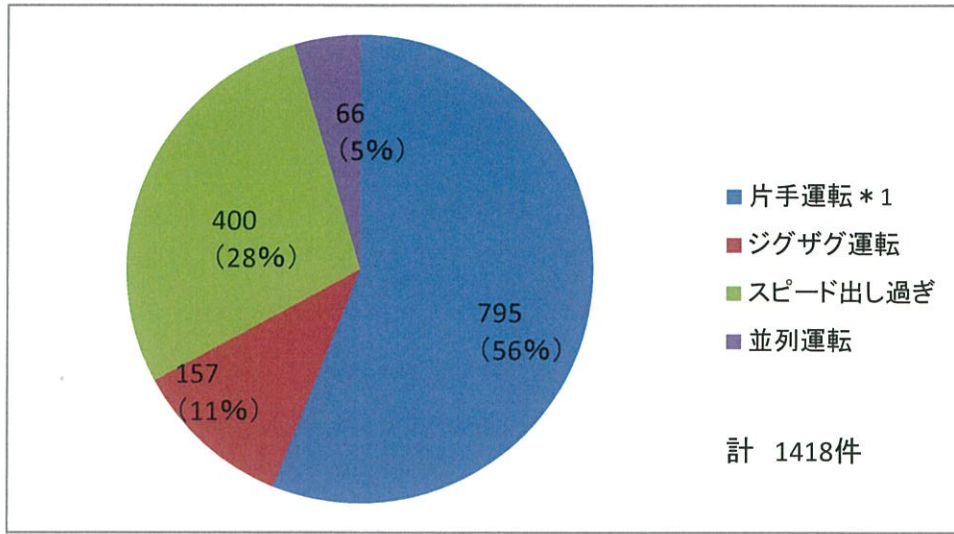
* 1 内96件 携帯電話を使用中の運転



危険運転行為

調査期間 29年4月～30年3月

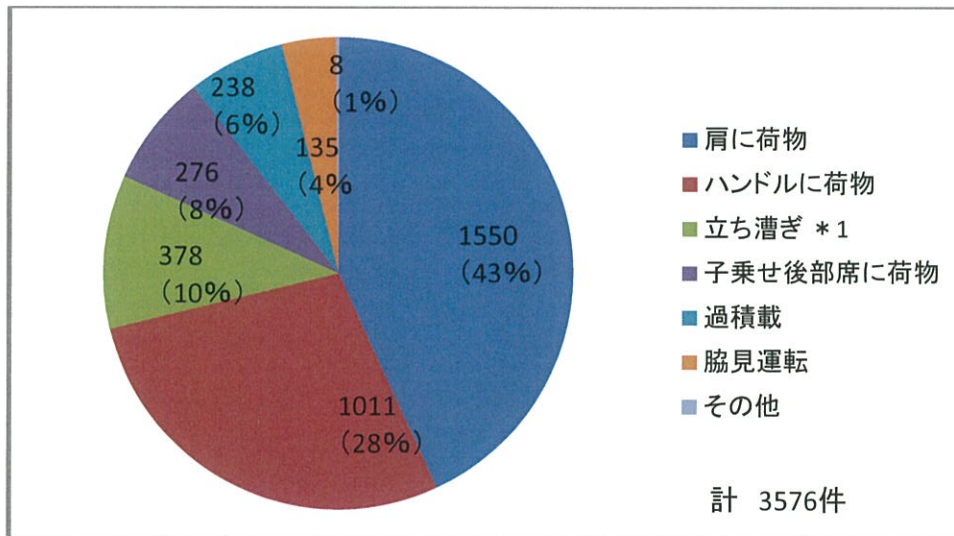
* 1 比率内訳: 上り坂384・下り坂94



違反運転行為
(歩道上)

調査期間 29年4月～30年3月

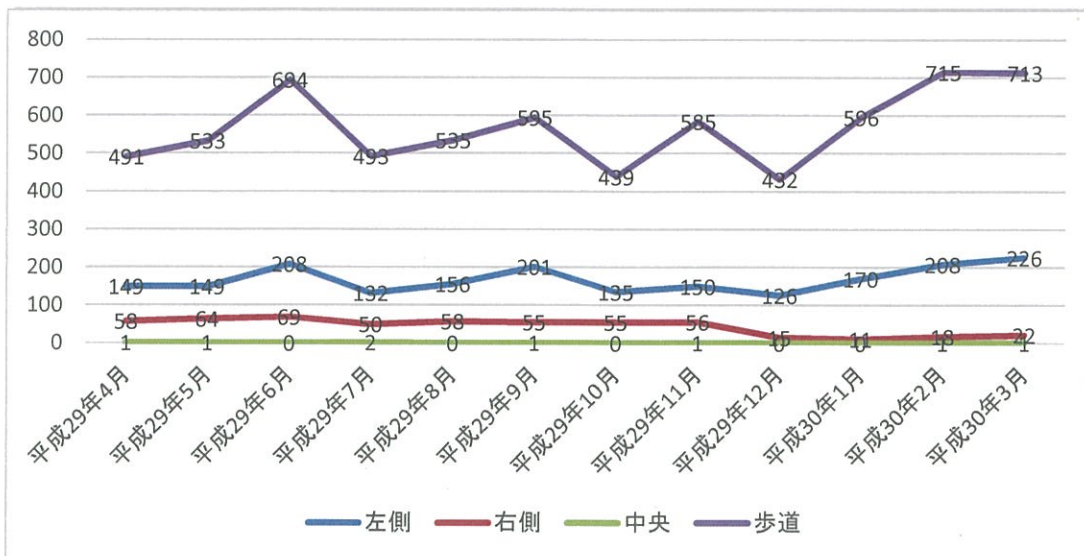
* 1 内79件 携帯電話を使用中の運転



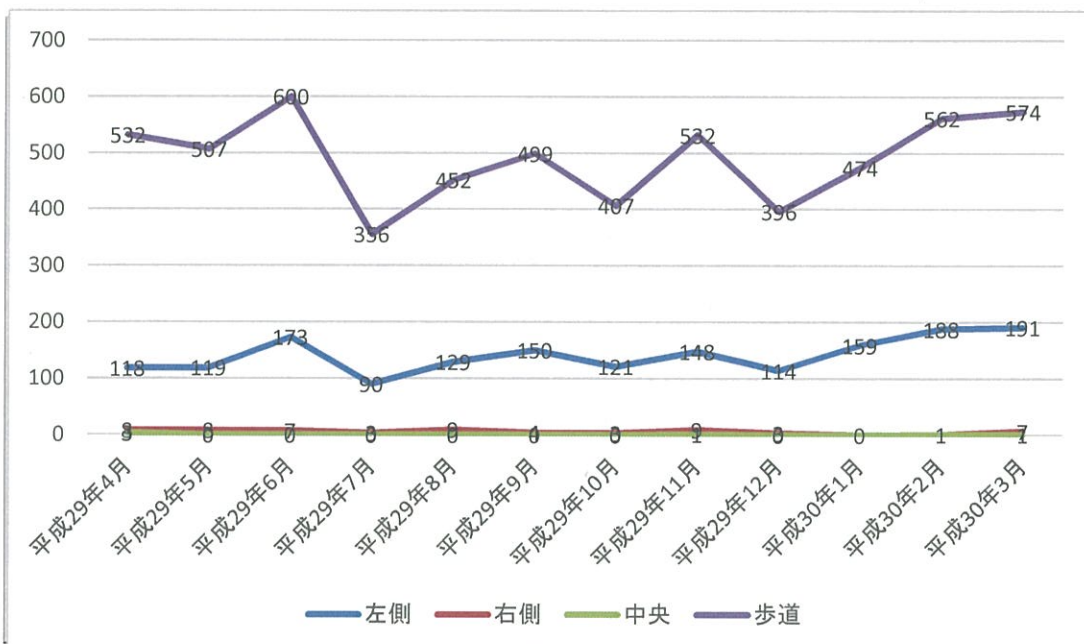
危険運転行為
(歩道上)

調査期間 29年4月～30年3月

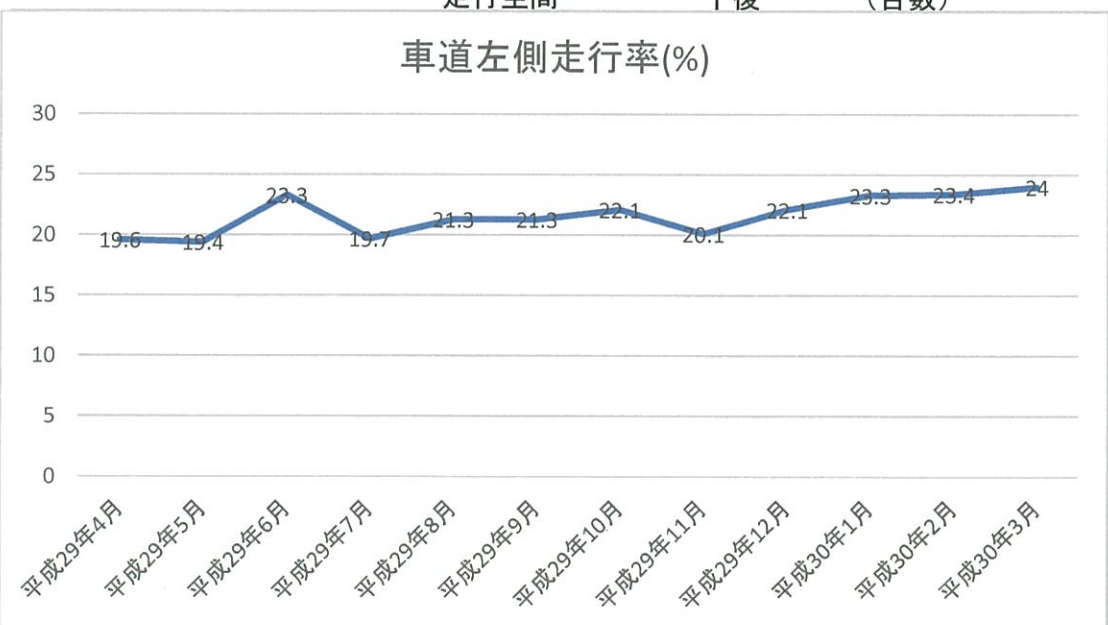
* 1 比率内訳: 上り坂334・下り坂44



走行空間 午前 (台数)



走行空間 午後 (台数)



平成 2 9 年度総括版 自転車利用実態定点調査報告 (B地点)

(一財)日本自転車普及協会

調査目的 自転車は車道左側走行が原則であるが、実際の自転車の走行状況の実態を調査し、その状況の問題点を探り一般に公開することで、望ましい走行空間の再考資料としていただくことを目的に行う。

調査日時 平成29年4月～平成30年3月(毎月下旬の任意の1日)
[午前]9:00～10:00/ [午後]14:00～15:00

調査場所 ・ 白金幼稚園前 (庭園美術館西交差点(首都高速目黒線直下)から70m程の上り坂)

- 概 要 ・ 調査対象(車道線:目黒通り上り4車線及び歩道:幅員3.1m
[一部歩道橋橋脚部分1.5mあり])
調査対象外(反対側上り歩道)



	歩道				←	対象外
上り線車道	←直進・右折レーン				}	対象エリア
	←直進レーン					
	←左折レーン					
	←左折レーン					
	歩道		↑			
		白金幼稚園				

調査事項 走行空間調査(車道、歩道)と危険走行調査

自転車利用実態調査結果一覧表

No.	走行空間		車種	乗次	危険運転行為	
	車道左側	車道中央			違反行為	危険運転
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						

<調査票>

[総括]

平成 29 年度（平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月分の 12 ヶ月間）の総括として、以下の項目について、報告します。

◎走行空間においては、車道左側走行率は、16%であり、また、車道中央走行率は、20%で、全般に歩道を通行する自転車が多く、全体の 6 割強を占めている。

◎危険運転行為(違反行為を含む)の総数は、車道中央走行(256 件)・肩に荷物(157 件)・立ち漕ぎ(60 件)・ハンドルに荷物(55 件)・片手運転(44 件/内 7 件は、携帯電話を使用しながらの運転)・過積載(32 件)・子乗せ後部席に荷物(*1)(9 件)の順となっている。

*1 子乗せ後部席に荷物を掛ける事は、もし、気が付かない間に落下して、歩行者や自転車等に迷惑(通行障害・事故起因等)を及ぼしかねないので、基本、止めた方が望ましい。

また、利用者全体(1285 名)における危険運転行為等(違反行為を含み 604 件)の比率は、50%となっている。

◎自転車総合ビル前とのデータについて以下の項目について比較してみた。

・車道左側走行率

白金は、16%であり、総合ビル前の車道左側走行率は、22%であった。
白金は、総合ビル前の7割強である。

・車道中央走行率

白金幼稚園近辺の特殊性(*1)から総合ビル前と比較して圧倒的に多く、全体の2割を占めている。
対して総合ビル前は、僅か1%である。

*1 車道中央走行が多い理由は、上り車線先の庭園美術館西交差点において、歩行者横断帯中央にて左折道路と直進道路が分断されており、直進する利用者は、同交差点のかなり手前から道路中央を走行していたが、4車線での中間(両隣が2車線)走行のため車両に挟まれてながらと、かなり危険な走行を強いられている感が窺えた。

・子乗せ自転車

白金は、18%であり、総合ビル前は、24%であった。
白金は、総合ビル前の7割強の水準であり、総合ビル前と比較して、幼稚園等の保育施設が、1箇所しか存在していないことが要因と考慮される。
さらに、ヘルメット着用率は、白金は、84%であり、総合ビル前は、75%であった。
白金も、総合ビル前と同程度の水準であり、全般的に子どもを乗車させる時には、ヘルメットを着用させる傾向が高く、自転車ルール・マナーへの意識が高い。

・電動自転車

白金は、33%であり、総合ビル前は、37%であった。
白金は、総合ビル前と同程度の水準であった。

・危険運転行為

(違反行為を含む)

白金の [車道中央走行・肩に荷物・立ち漕ぎ等] に対し、総合ビル前では [肩に荷物・ハンドルに荷物・片手運転等] と、共通項目は、肩に荷物の 1 件となっている。

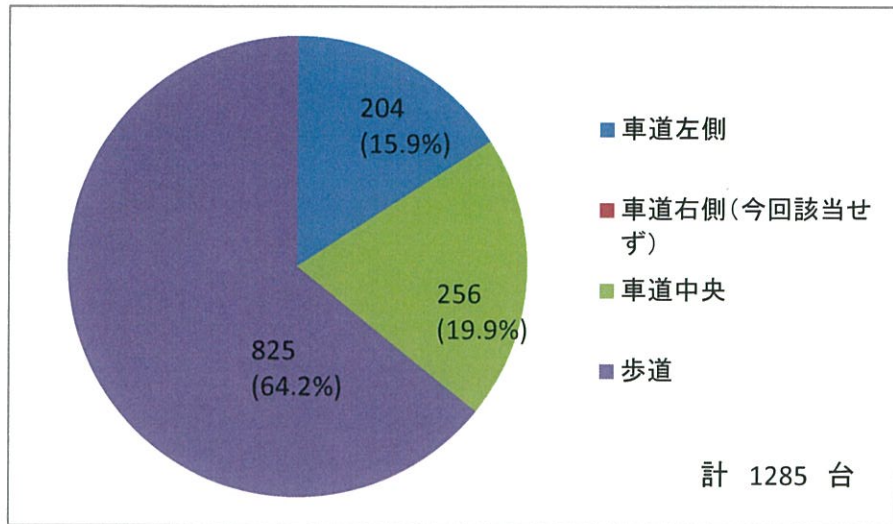
なお、「車道中央走行・肩に荷物」の 2 項目だけで、全体の 7 割強を占める形となった。(危険防止等の観点から籠の装備や荷台に装着等の必要性がある)

今回の白金地区は、総合ビル前で行っている定点調査に対して、反対地点では、どのようなデータ(同様か相違か)が得られるかとして実施したものである。

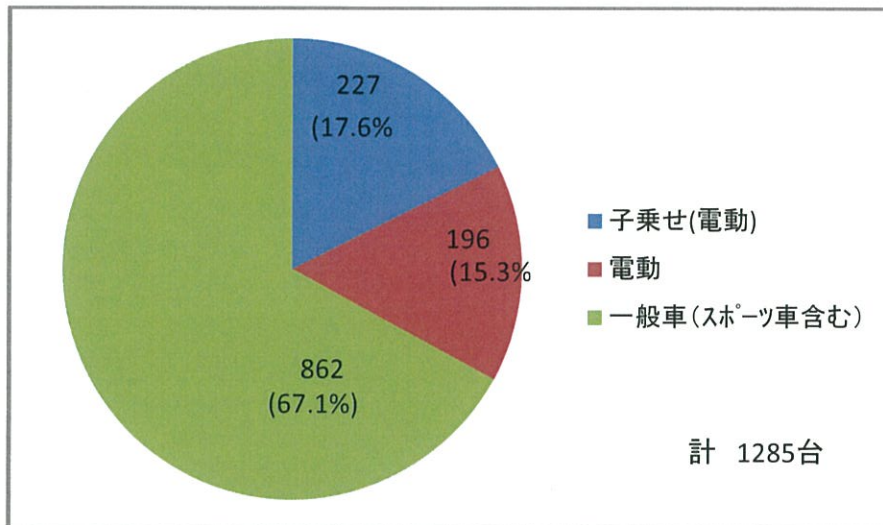
結果、上り車線と下り車線の違いもあり、各種データの内、車道左側走行率は、7 割程度の水準であり、全体の 2 割を占める車道中央走行率が要因として考慮される。

また、子乗せ自転車・電動自転車の比率は、8 割程度の水準であった。

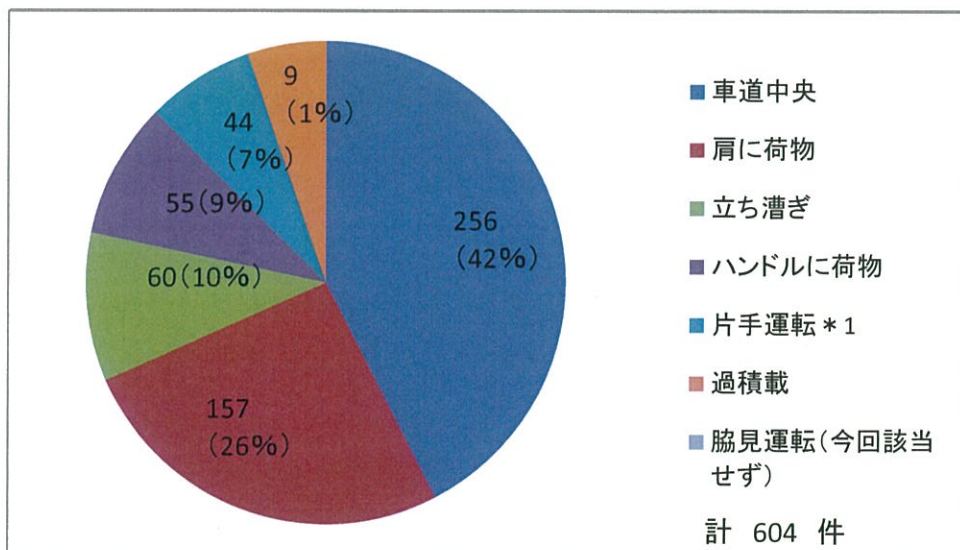
一方、車道中央走行率は、圧倒的な相違が生じた結果となった。



走行空間

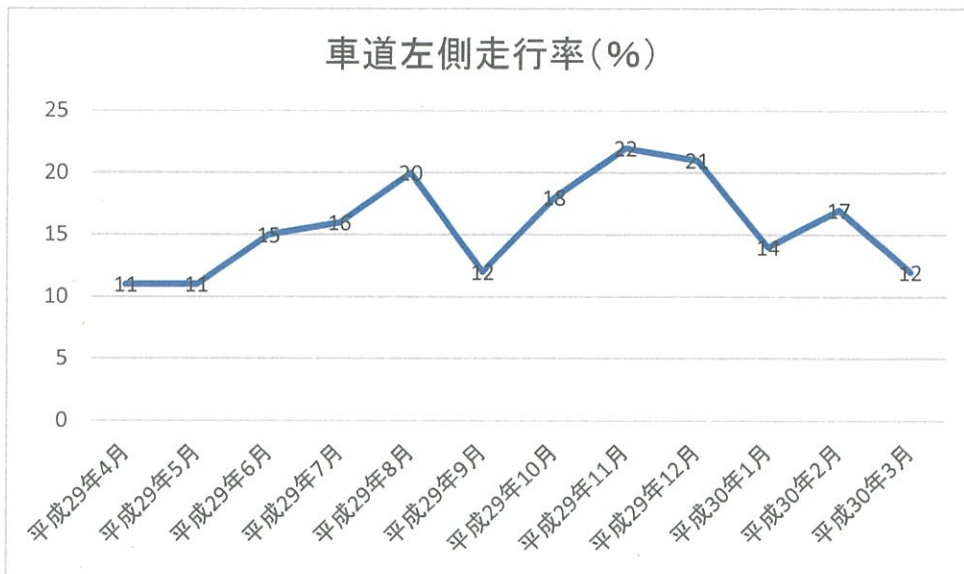


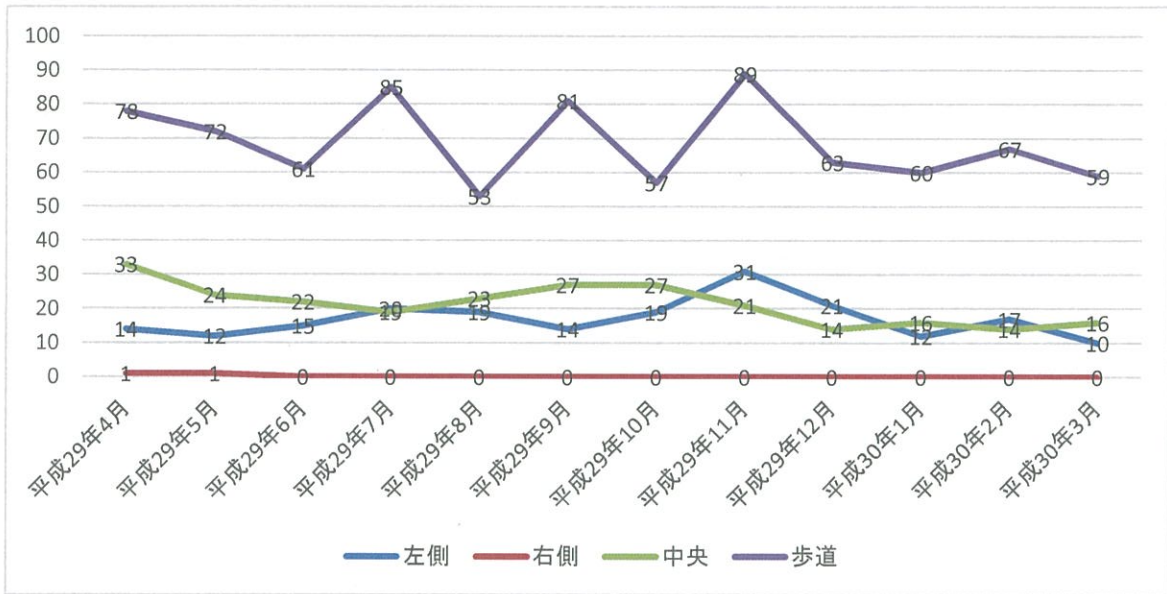
車種



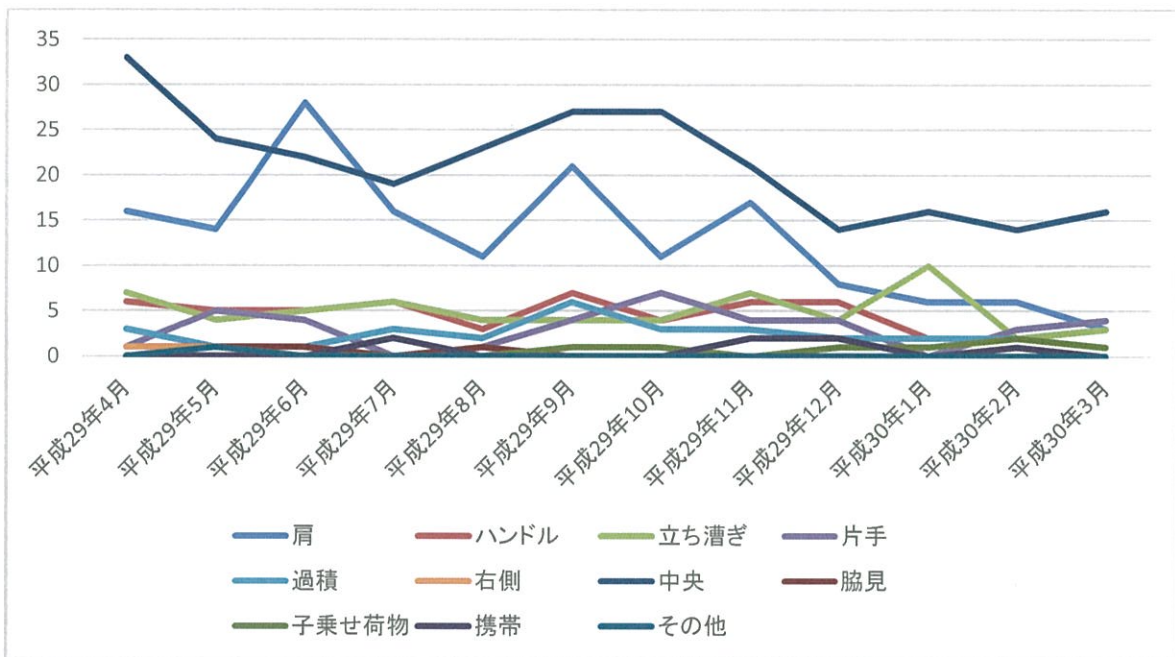
危険運転行為 (違反行為を含む)

*1 内7件 携帯電話を使用中の運転





走行空間 (台)



危険運転行為 (違反行為を含む) (件数)